

地藏院

〔紙屋川の西にあり、浄土宗にして、本尊は阿弥陀仏、南の小堂にあり、地藏菩薩を安ず、行基の作なり。又聖観音を安ず、慈覚の作なり。洛陽観音めぐりの其一にして第三十一番の札所なり〕

長名椿

〔当寺の庭中にいみじき椿かずくありて、花の頃は玲瓏たる色をあらはし、実に八千代を歴べき莊子の語のおもかけなるべし〕

北野御旅所旧跡

〔下立売紙屋川の西にあり、小祠あり、菅神を祭る。むかしは御祭の儀式嚴重にして、祭礼北野より此所まで続き、音楽にて神輿を遷幸し奉りけり〕

常磐里・夫木

此里はときはの杜の花咲かかりてや春を知らん 家隆

白楽天杜

〔御旅所の西南三町ばかりにあり〕

橋次宅地

〔木辻村南側、畠の字となすなり。伝云、奥州金売橋次が宅なりと、不詳〕

花園はなぞの〔今妙心寺めうしんの地をいふ。花園社はなぞのは妙心寺めうしんの西一町ばかりにあり、地主ちしゆの神とす、社記未考〕

協地蔵かなへのちざう〔下立売しもたちうりの西、法金剛院こんがうあんの巽にあり。本尊地蔵菩薩ほんざんちざうぼさつ坐像八尺にして弘法大師こうぼうの作なり。六体地蔵たいちざう、十王堂、此境内にあり〕

極楽橋ごくらくぼし〔地蔵堂ちざうだうの西、街道かいだうの中にあり。伝云、待賢門院たいけんもん此橋上にて、阿弥陀仏あみだぶつ聖衆しやうしゆと来迎の体相を見給ふゆゑなづくるなり〕

安居〔地蔵堂の卯辰の間にあり、民家あり村の名とす、此地むかしは八条女院やうによあんの御所なり。其後寺となし、高倉宮たかくらのみやの御子、僧正道尊住そうじやうだうそん給ひ、是を安井御門跡と称す。後世洛東らくとうに再興あり〕

龍翔寺旧趾りうしやうじきうし〔安居村にあり、御宇多院塔ごうだのあんたふ此所にあり。伝云、御髪を蔵る所なりとぞ〕

○〔是より以下に図するは、右白虎びやくこの巻にして洛西北嵯峨らくくさいさが、あるひは常盤里とまほのさと、又は水尾等みづのをとらうより始り、南は長岡ながをか、山崎やまざき郷がうに至り、城撰じやうせつの界さかひまでをあらはす〕